

2024年 12月 10日

## 2024年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 一般社団法人 LFA Japan

代表者・役職名 氏名代表理事 大森真友子

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

次世代に向けた自助・共助のススメ ~食物アレルギー~ 活動地域:九州地域

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

食物アレルギーに関する情報の収集や周りの認知度を上げる普及啓発活動を行うことにより、人々の健康と安全、福祉の向上に寄与することを目的とし 2017 年に設立。2018 年西日本豪雨以降、被災地への食料支援を始め、災害時連絡用窓口 LINE(1,600 名)の運営等、全国約 80 患者会とネットワークを構築し情報共有を行いながら、災害時におけるアレルギー対策について講習啓発を行っています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

全国民の 2 人に 1 人が何らかのアレルギー疾患を持っており、乳幼児・小児の 10 人に 1 人には食物アレルギーと言われています。災害時における食物アレルギー対策は全国的に課題となっていますが、患者会はコロナ禍で閉会した会も多く、SNS 中心の活動となった今、地域や患者会同士の関りをあまり持っていない。自助促進として必要なことは何か、被災した際に起こることを情報共有し、共助啓発として周りの人への伝え方など繋がり方を伝授することで甚大な災害が来た際に助けあえるネットワークを作ることが目的です。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

2024 年 10 月 18 日(土)19 日(日)内閣府主催のぼうさいこくたい 2024 に出展し、九州地域の患者会に声をかけ一緒に啓発活動を行います。災害時にアレルギー疾患を有する者は要配慮者となり、食に困る実例を紹介すると共に、災害時における炊き出しの原材料表示の必要性や、アレルギーがある人の非常持ち出し袋の具体的な提案について来場者に発信するだけでなく、SNS を活用してネット世代にも発信します。また、地域の患者サークルの存在を知ってもらう機会とし、リアルな地域への働きかけや、繋がり方、継続した地域啓発ができるように発信の仕方を伝授します。

### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

ぼうさいこくたいでは約 600 部の冊子を配布、患者会 4 団体の協力を得ることができました。ポスター展示出展となった為、来場者対応が多く当日のライブ配信は出来ませんでした。参画した地域患者会には、食物アレルギーがない人に向けて啓発する際の目に見える展示物の効果的な使い方を伝授しましたが、早速 11 月 12 月と同様の展示物を制作し地域でアレルギーと防災をテーマにした講座を開催することができました。開催地は 2016 年熊本地震がおきた地でしたが、8 年前より食物アレルギー患者は増加しており、当時は知り得なかった炊き出し表示の必要性や方法について興味を持つ人が多く、防災訓練で配付したい等ニーズを強く感じることが出来ました。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題は、アレルギーがある当事者や患者会の地域防災イベント参画の難しさです。自助共助の必要性は理解していても、地域イベントや子ども食堂などで食物アレルギーの方はご遠慮ください等、参加を断られた経験をもつ場合、わがままだと言われるのではないかという心理が大きく作用し、平時有事共に声を出せません。オンラインでの関係が楽だと思う世代に向けて対面の利点も引き続きSNSで発信すると共に、私たち団体も東海地方のアレルギー支援団体から交通費を負担してもらい、講習会に呼んでもらったことがきっかけで、自助への意識や共助について考えるようになった為、他患者会の背中を押せるきっかけを捻出し、成功した啓発例を伝授することでその先の多くの人に情報を広げていきたいです。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください

